



# 風待ち西郷・みなとオアシス

隠岐の島町建設課  
野辺一寛



「風待ち西郷みなとオアシス」は平成16年8月10日に仮登録を受け、平成20年度中の本登録申請に向けて活動を行っています。

## 西郷港の概要

『西郷は誠に驚くべき町であった。大きな漁村くらいにしか思っていなかったが、境よりはるかに大きく整っていて、あらゆる点ですと近代化されていた。長い通りいっぱいにはりばな店が並び、見事な公共の建物が立ち、見るからに商業が栄えている都市であった』この言葉は、小説家でもあり新聞記者でもあった小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が、1892年の夏に隠岐を訪れた際西郷港の繁栄振りに驚嘆した言葉ですが、この言葉によって当時の西郷港の様子を知ることができます。

西郷港は明治30年代まで北前船の風待ち港として栄え、隠岐のアワビ、ナマコ、スルメが北前船によって運ばれ、長崎俵物として中国との貿易に使われました。また、遥か2万年前には矢じりとして使用された隠岐産黒曜石の輸出港としての機能も持ち、環日本海交流の拠点でもあったのです。

## みなとオアシスとしての取り組み



風待ちスタジオ

このようにして栄えた西郷港ですが、近年は観光客数の減少と公共事業費の削減から西郷港周辺の商店街には空き店舗が目立つようになっていきます。このような状況に対して、港の魅力アップと賑わいを取り戻すために西郷港の改修事業にあわせて平成14年からワークショップやイベント等の開催を行い、みなとを中心としたまちづくりに取り組んでいます。

また、隠岐は日本海に浮かぶ離島であり、日本海を渡り隠岐に着かれた方にとってはまさに日本海に浮かぶ『オアシス』でもあります。

観光客の方に、みなとの魅力を楽しんで頂くために仮設栈橋での『お祭り広場』などの開催も行っていますが、隠岐の知られざる歴史・文化・自然環境の紹介をするために、西郷港の高速船待合所内での「風待ちスタジオ」の運営やエコツアーコースの設定、ガイドブックやガイドマップによる情報発信なども積極的に行っています。

今後は、隠岐の特徴を活かして離島ならではの『みなとオアシス』づくりに向けた活動を行っていきたくと考えています。

『日本の記憶が息づく島“隠岐”』を一度体験してみませんか！

風待ち西郷  
みなとオアシス

島根県

隠岐黒曜石の道  
Obsidian Road

仮設栈橋でのイベント



人前結婚式



あおぞら市



お祭り広場

